

令和 6 年度 東北支部研究発表会

日本都市計画学会東北支部

1. はじめに一土井良浩（弘前大学）

東北支部では、2025 年 3 月 2 日（日）、東北大学災害科学国際研究所にて毎年恒例の支部研究発表会を開催した。当日は 40 名の発表者を含む 60 名以上にご参加いただき、3 会場に分かれて研究の成果発表と議論が行われた。また、今年度から若手研究者を対象とした「優秀発表賞」が創設され、その選定・表彰も行った。以下では司会を務めた幹事や総務企画委員から各セッションの様子をご紹介します。

2. 各セッションの様子

■小地沢将之（宮城大学）

会場 A 第一セッションでは、歴まち法と景観規制の関係を分析したもの、河川景観に対する住民意識を調査したもの、リゾートマンションの管理実態を調査したものなど、意欲的な調査に基づいた研究発表が多かった。質疑応答においても東北地方の実情に照らした観点でのやり取りも行われ、充実した議論が行われた。

■丸岡陽（長岡技術科学大学）

会場 A 第二セッションでは、災害リスクの評価、リスクに基づく規制制度の課題、最適な避難のあり方などに関する発表があった。歩車混在での避難や、リスクと人口減少の関係など、地方部特有の問題を出発点とする研究が多く、実践的な評価や規制の手法が提案された。フロアからも過去の事例を踏まえた具体的な議論が交わされた。

■杉田早苗（岩手大学）

会場 A 第三セッションの司会を担当した。本セッションは東日本大震災をはじめとする大規模災害後の復興に関連した市街地整備や集団移転、民間の商業活動や建築動向に関する研究発表があった。会場からは、被害状況や復興に関連した事業の実態に関わる質問がなされるとともに、災害復興のあり方について議論がなされた。

■谷本真佑（岩手大学）

会場 B 第一セッションでは、市民協同、公共交通、再生可能エネルギーに関する発表が行われた。研究テーマは多岐にわたったが、いずれの発表も地域社会の活性化や持続可能性の向上を模索した研究であり、人口減少・高齢化といった課題を抱える地方部における課題解決に向けた知見が参加者と共有された。

■河村信治（八戸工業高等専門学校）

会場 B 第二セッションでは、立地適正化計画における都市計画区域外の地域生活拠点、ウォーカブルな中心市街地の移

動利便性、市立図書館への PFS 導入、公共施設への愛着の構成要素、余暇活動に影響する個人要因と都市効果、といった地方都市の生活文化的豊かさの維持・向上を志向するユニークかつ時宜を得たテーマの発表と活発な議論が繰り広げられた。

■重浩一郎（八戸工業高等専門学校）

会場 B 第三セッションの司会を担当した。新築住宅の動態を統計調査からアプローチした研究や、居住誘導区域内の空き地の菜園への活用に関する研究、民間事業者による空き家施設等の利活用に関する研究、空き家セミナーを契機に民泊等へと事業展開を行っている事業者に関する研究発表があり、研究の展開に向けたコメントや活発な質疑応答が行われた。

■荒木笙子（岩手大学）

会場 C 第一セッションでは土地利用コントロールに関する計 5 題の研究が発表された。土地利用変遷の把握、市街化調整区域における既成市街地や地区計画を扱ったもの、拡大した工業地域を扱ったもの、立地適正化計画の課題を示したものが、人口減少下で課題となる先進的なテーマが発表された。今後の研究の展開について、活発な議論が展開された。

■馬渡龍（八戸工業高等専門学校）

会場 C 第二セッションの司会を担当した。当セッションは 4 題のうち 1 題辞退となり 3 題の発表が行われた。

共通点はデジタル関連研究であり、行政におけるデジタルプラットフォームの導入事例から有効活用の可能性を考察した研究、祭りが観光客の地域愛着形成に与える影響、佐渡市観光景観の印象評価についていずれも Web アンケートサービスを活用して考察した研究であった。

■日野智（秋田大学）

会場 C 第三セッションでは、トレイルの利用動態や大学生のモビリティ、モバイル空間統計の活用など、移動や交通に関連した発表がなされた。東北以外を対象地域とした研究もあったが、それぞれの研究の題材はこれからの東北地方にとって必要とされるものであった。また、質の高い発表と活発な質疑がなされ、充実したセッションであった。

